

県立海田高 ○中尾妙子

目的 戦後食生活の欧風化が進められて久しい。現在の幼稚園児の母親は大半が、日本の高度経済成長時代に育ち、核家族の中ひ子供を自由に育てようという傾向が強いが、果たして幼稚園児の食生活は、子供にとって望ましい状態であらうか。今回は献立、生活時間、体格の三要素から現状を明らかにしたい。

方法 広島市内のA幼稚園の男子34名、女子32名について、献立、生活時間等と連続3日間、2回の実態調査を行ない、献立については料理形式を中心に分析した。又、生活時間については、睡眠、摂食時間を中心に分析を試みた。体格については、身長・体重をはじめ、胸囲、胸囲比、それぞれの内径、外径も測定し、更に皮下脂肪の実測も行なったので、これらの統計処理を試みた。

結果、献立については、主食の内容において、米食率の低下が認められると同時に、米パン以外のものと主食代りにとり、主食の考え方に変化がうかがわれた。副食については予測した程、欧風化してゐなかった。尚、飲み物、け物について、欧風化への一応のさざしが認められた。

生活時間については、幼児独特のものがあり、体格については、各種測定値について、平均値、偏差値等を求め、測定値間の相関についても、検討中である。